新専門医制度

姫路赤十字病院

内科専門研修プログラム



内科専門研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・ P. 1
内科専攻医研修（モデル）・・・・・・・・・・・・・・ P. 12
専攻医評価時期と方法・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 15
専攻医の募集と採用・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 20
内科専門研修施設群・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 26
専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・・・・・ P. 66
各年次到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 67
週間スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 68

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は，日本内科学会 Web サイトにてご参照ください．

1. 理念・使命・特性

理念

1) 本プログラムは, 兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院である姫路赤十字病院を基幹施設として，兵庫県播磨姫路医療圏及び近隣医療圏内の連携施設からなる施設群での内科専門研修を経て，兵庫県播磨姫路医療圏の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように修練し，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある，兵庫県全域を支える内科専門医の育成を目的として整備されています.

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医による適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します. 内科領域全般の診療能力とは, 臓器別の内科系 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力で，知識や 技能に偏らずに患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して，可塑性が高く様々な環境下で，全人的な内科医療を実践できる先導者の持つ能力です.

3) 内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに， 疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴があります. そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を 受けることによって，リサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命

1) 兵庫県播磨姫路医療圏に限定せず, 超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，①高い倫理観を持ち，②最新の標準的医療を実践し，③安全な医療を心がけ，④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく，全人的な内科診療を提供すると同時に，チーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も, 内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民に生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究, 基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1) 本プログラムは, 兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院である姫路赤十字病院を基幹施設として，兵庫県播磨姫路医療圏，近隣医療圏にある連携施設からなる施設群での内科専門研修を経て，超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます. 研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります.

2) 姫路赤十字病院内科施設群専門研修では, 症例をある時点で経験するということだ

けではなく，主担当として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって，目標への到達とします．

3) 基幹施設である姫路赤十字病院は，兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な高度急性期・急性期病院であるとともに，地域の病病・病診連携の中核です(地域医療支援病院)．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映した複数の病態を持った患者の診療も経験でき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

4) 基幹施設である姫路赤十字病院及び連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で,「研修手帳（疾患群項目表)」 に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（以下，J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 51 別表 1「姫路赤十字病院 疾患群症例病歴要約 到達目標」参照)．

5) 姫路赤十字病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 2 年目からの 1 年間で，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

6) 基幹施設である姫路赤十字病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で,「研修手帳（疾患 群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会 J- OSLER に登録できます．可能な限り,「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします
（P. 51 別表 1「姫路赤十字病院　疾患群症例病歴要約　到達目標」参照)．

7) 本プログラムの特徴は，姫路赤十字病院での強みを生かした内科専門研修に加えて，症例数の比較的少ない領域については，その領域を得意とする連携施設での専門的研修で補完できることです.達成度が十分に獲得出来ている場合には,より専門的，subspecialty 領域の研修も出来ますし，それぞれの基本をしっかり修得し，幅広い臨床能力を得て地域医療を実践したいとのご希望にも十分に答えることができます．内科専攻医，指導医，subspecialty 上級医，スタッフによる 360 度評価を基に，十分な研修到達度達成を目標として，きめ細かな研修，比較的自由度の高い研修ができることを目指しています．

専門研修後の成果

内科専門医の使命は，1)高い倫理観を持ち，2)最新の標準的医療を実践し，3)安全な医療を心がけ，4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．

内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが，それぞれの場に応じて，

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ,あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，

その環境に応じた役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります.

姫路赤十字病院内科専門研修施設群での内科専門研修修了後は，その成果として内科医としてのプロフェッショナリズム の涵養と general なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，兵庫県播磨姫路医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が 果たすべき成果です.

2. 募集専攻医数

下記 1)～8)により，姫路赤十字病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 8 名 とします.

1）姫路赤十字病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 16 名です.

2）剖検体数は 2025 年度実績 7 体です.

表．姫路赤十字病院　領域別診療実績

2014 年実績	入院患者実数（人 /
総合領域	116
消化器領域	1105
循環器領域	481
内分泌領域	6
代謝領域	66
腎臓領域	222
呼吸器領域	201
血液領域	609
アレルギー領域	20
膠原病領域	38
感染症領域	50
救急領域	667

3) アレルギー，膠原病領域は外来診療症例も豊富で，新規発症，急性増悪，安定期等の多彩な症状を経験できます.

4) 糖尿病は、糖尿病専門医による専門診療があり、代謝，内分泌は，主に非常勤専門医による専門外来診療と基礎疾患として持つ入院患者診療で十分に経験可能です.

5) 10 領域の専門医が 1 名以上在籍しています　（P. 17 「姫路赤十字病院内科専門研修施設群」参照）.

6) 1 学年 8 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.

7) 専攻医 2 年目に研修する連携施設には，播磨姫路医療圏及び近隣医療圏内の特定機能病院 3 施設，地域基幹病院 4 施設及び地域医療密着型病院 3 施設に加えて，近隣医療圏の高次機能・高度急性期病院 6 施設，計 16 施設あり，専攻医のさまざま希望・

将来像に対応可能です.

8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群，120 症例以上の診療経験は達成可能です.

3. 専門知識・専門技能とは

専門知識

「内科研修カリキュラム項目表」　参照 専門知識の範囲（分野）は,「総合内科」「 消化器」,「循環器」,「内分泌」,「代謝」,「腎臓」,「呼吸器」,「血液」,「神経」,「アレルギー」「膠原病および類縁疾患」,「感染症」並びに「救急」で構成されます.

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」,「病態生理」,「身体診察」,「専門的検査」,「治療」,「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

専門技能

「技術・技能評価手帳」　参照 内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力が加わります．これらは特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4. 専門知識・専門技能の習得計画

到達目標 （P. 51　別表 1「姫路赤十字病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」　参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識･技能･態度の修練プロセスは以下のように設定します.

モデルプログラム（ローテーション）

○専門研修（専攻医）1 年:

- 姫路赤十字病院　内科で 2～3 ヶ月間の 7 領域のローテーション研修します（期間並びに領域数については調整可能）　.
- 救急領域は，各領域研修中の救急疾患診療に加えて，1 週間（月～金曜日）午前/午後，計 10　コマのうち，1～2 コマを受け持ち，救急診療研修します.
- 症例 :「研修手帳（疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会 J-OSLER にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については，担当指導医の評価と承認が行われます.
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 5 症例以上記載して，日本内科学会 J-OSLER に登録します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈および治療方針決定を指導医，subspecialty 上級医とともに行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って，態度の評価を行い，担当指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）2年:

- 連携施設での研修：連携施設 20 施設から，1施設に3ないし6ヶ月間を目安に施設選定します.
- 症例:「研修手帳（疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以 上の経験をし，日本内科学会 J-OSLER にその研修内容を登録します.
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 29 症例すべて記載して日本内科学会 J-OSLER への登録を終了します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方決定を指導医，subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複 数回行って，態度の評価を行います. 専門研修（専攻医）1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを，担当指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）３年 ：

- 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験す ることを目標とします. 修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外 来例は1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会 J-OSLER にその研修内容を登録します.
- 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.
- 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約査読委員によるピアレビューを受けます. 査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します. 但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します.
- 技能:内科領域全般について,診断と治療に必要な身体診察,検査所見解釈,および治療方針決定を自立して行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と，指導医，subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って，態度の評価を行います. 専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善が図られたか否かを指導医がフィードバックを行います. また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.

重点プログラム

○専門研修（専攻医）１年 ：

- 姫路赤十字病院内科で希望診療科にて subspecialty 内容を含んだ内科専門研修します .
- 救急領域は，当該診療科の救急疾患診療に加えて，1 週間（月～金曜日）午前/午後，計 10 コマのうち，1～２コマを受け持ち，救急診療研修します.
- 症例:「研修手帳（疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会 J-OSLER にその研修内容を登録します. 以下，全ての専攻医の登録状況については，担当指導医の 評価と承認が行われます.

・ 専門研修修了に必要な病歴要約を 5 症例以上記載して，日本内科学会 J-OSLER に登録します.
・ 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈および治療方針決定を指導医，subspecialty 上級医とともに行うことができます.
・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数 回行って，態度の評価を行い，担当指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）２年:
・ 上記モデルプログラム研修と同様です

○専門研修（専攻医）３年 :
・ 姫路赤十字病院内科で 希望診療科にて主に subspecialty 領域を研修します
・ 希望診療科以外の症例についても、追加や補完するための症例ごとに研修できます.
・ 症例、技能、態度は上記研修と同様です.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会 J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

姫路赤十字病院内科専門研修では,「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠 なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携施設１年間）としますが，修得が未達成な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長します．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと 認められた専攻医には積極的に subspecialty 領域の専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

臨床現場での学習

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域 を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します(下記 1)～6)参照)．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します.

代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します． これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

1) 内科専攻医は，担当指導医もしくは subspecialty 上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退 院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.
2) 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科，内科・外科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます.
3) 総合内科外来（初診）や subspecialty 診療科外来（初診を含む）を週 1 回，

1年以上担当医として経験を積みます.

4) 救急外来（平日日勤帯）で内科領域の救急診療の経験を積みます.

5) 救急当直医として休日・夜間救急外来診療の経験を積みます.

6) 必要・希望に応じて，subspecialty 診療科検査を担当します. 例えば，上部消化管内視鏡検査，下部消化管内視鏡検査，腹部超音波検査，心臓超音波検査などの画像診断研修です.

臨床現場を離れた学習

1) 内科領域の救急対応，2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，3) 標準的な医療安全や感染 対策に関する事項，4) 医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します.

② 定期（毎週1回程度）：開催する各診療科（領域）での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会：基幹施設 2022年度実績12回 ※内科専攻医は年に 2 回以上受講します.

③ CPC：基幹施設 2022年度実績 5回

④ 研修施設群合同カンファレンス：2022年度実績 2回

⑤ 地域参加型のカンファレンス：基幹施設：内科体験学習カンファレンス，姫路地域救急医療合同カンファレ ンス，地域連携カンファレンス，姫路市医師会主催・共催研究会（2022年度実績30回；内科医会， 循環器研究会，呼吸器研究会，消化器病研究会など）

⑥ JMECC受講：※内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに 1 回受講します.

⑦ 内科系学術集会（下記「７. 学術活動に関する研修計画」 参照）

⑧ 各種指導医講習会/JMECC指導者講習会 など

自己学習

「研修カリキュラム項目表」では， 知識に関する到達レベルを

A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）

B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類し，

技術・技能に関する到達レベルを

A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる）

B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる）

C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）

に分類し，症例に関する到達レベルを

A 主担当医として自ら経験した

B 間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した）

C レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習したと分類しています.

「研修カリキュラム項目表」 参照 自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.

① 内科系学会が行っているセミナーのDVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題 など

自研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム

日本内科学会 J-OSLER を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します. 指導医はその内容を評価し,合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
- 専攻医による逆評価を入力して記録します.
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約査読委員 によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療 安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス

姫路赤十字病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載しました（P.17 「姫路赤十字病 院専門研修施設群」参照）. プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である姫路赤十字病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

6. リサーチマインドの養成計画

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です. この能力は自己 研鑽を生涯にわたって積み重ねてゆく際に不可欠となります. 姫路赤十字病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても，

1) 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
2) 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM；evidence based medicine）.
3) 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.
4) 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
5) 症例報告を通じて深い洞察力を磨く. といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します.

併せて，

1) 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
2) 後輩専攻医の指導を行う.
3) メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

7. 学術活動に関する研修計画

姫路赤十字病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

1) 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.
   ※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します.

2) 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います．
3) 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います．
4) 内科学に通じる基礎研究を行います．

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします．

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表を筆頭者として２件以上行います． なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，姫路赤十字病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します．

8. コア・コンピテンシーの研修計画

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習 得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です． 姫路赤十字病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設いずれにおいても指導医，subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます． プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である姫路赤十字病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します．

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します．

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます．

9. 地域医療における施設群の役割

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．姫路赤十字病院内科専門研修施設群は兵庫県播磨姫路医療圏，近隣医療圏および兵庫県，岡山県，愛媛県，高知県，大阪府内の医療機関から構成されています． 姫路赤十字病院は，兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病病・病診連携の中核病院です（地域医療支援病院）．一方で，地域に根ざした第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設には，姫路赤十字病院内科研修を補完することを目的に，あるいは，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，専門病院である国立循環器病研究センター，兵庫県立がんセンター，姫路中央病院，

地域基幹病院である姫路医療センター，兵庫県立はりま姫路総合医療センター，姫路聖マリア病院，ツカザキ病院，地域密着型病院である厚生病院，井野病院，多可赤十字病院，及び，近隣医療圏にある高次機能病院である神戸赤十字病院，岡山市立市民病院，岡山赤十字病院，岡山労災病院，倉敷中央病院，愛媛県立中央病院，高知医療センター，大阪公立大学附属病院，大阪医科薬科大学病院，岡山大学病院で構成しています．

専門病院では，高度な急性期医療，専門的な内科診療（糖尿病，神経疾患，循環器疾患，がん診療）など，姫路赤十字病院では研修経験が十分でない領域や希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，姫路赤十字病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験や姫路赤十字病院研修を補完できる領域についてより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．地域密着型病院では，消化器疾患・代謝疾患を中心とした専門的医療，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療を研修します．

当プログラムでは，姫路赤十字病院内での研修を補完し，さらに発展させることを目的に，研修 2 年次の 1 年間で上記連携施設にて研修を深めます．特に，消化器系（倉敷中央病院，岡山市立市民病院，大阪公立大学附属病院，大阪医科薬科大学病院），循環器系（国立循環器病研究センター，兵庫県立はりま姫路総合医療センター，倉敷敷中央病院，愛媛県立中央病院，高知医療センター，），呼吸器系（姫路医療センター，神戸赤十字病院，岡山労災病院，愛媛県立中央病院，高知医療センター，他），神経系（姫路中央病院，兵庫県立はりま姫路総合医療センター，岡山労災病院，愛媛県立中央病院，高知医療センター他），糖・代謝系（兵庫県立はりま姫路総合医療センター，倉敷中央病院，愛媛県立中央病院，高知医療センター，他），内分泌系（愛媛県立中央病院，高知医療センター，倉敷中央病院，岡山大学病院，他），救急系（兵庫県立はりま姫路医総合医療センター，神戸赤十字病院，岡山市立市民病院，岡山赤十字病院，倉敷中央病院，愛媛県立中央病院，高知医療センター，国立循環器病研究センター，他），総合内科（岡山市立市民病院，岡山赤十字病院，愛媛県立中央病院，高知医療センター，大阪公立大学附属病院，大阪医科薬科大学病院，岡山大学病院，他），在宅医療（井野病院，厚生病院，多可赤十字病院）など，それぞれの連携施設の強みを活かした領域研修を行います．施設選定については，内科専攻医のご希望に沿える様に連携施設合同会議にて研修領域並びに研修施設を調整します．

10. 地域医療に関する研修計画

姫路赤十字病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態， 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力 の修得を目標としています．

姫路赤十字病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病 病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

. 内科専攻医研修（モデル ）

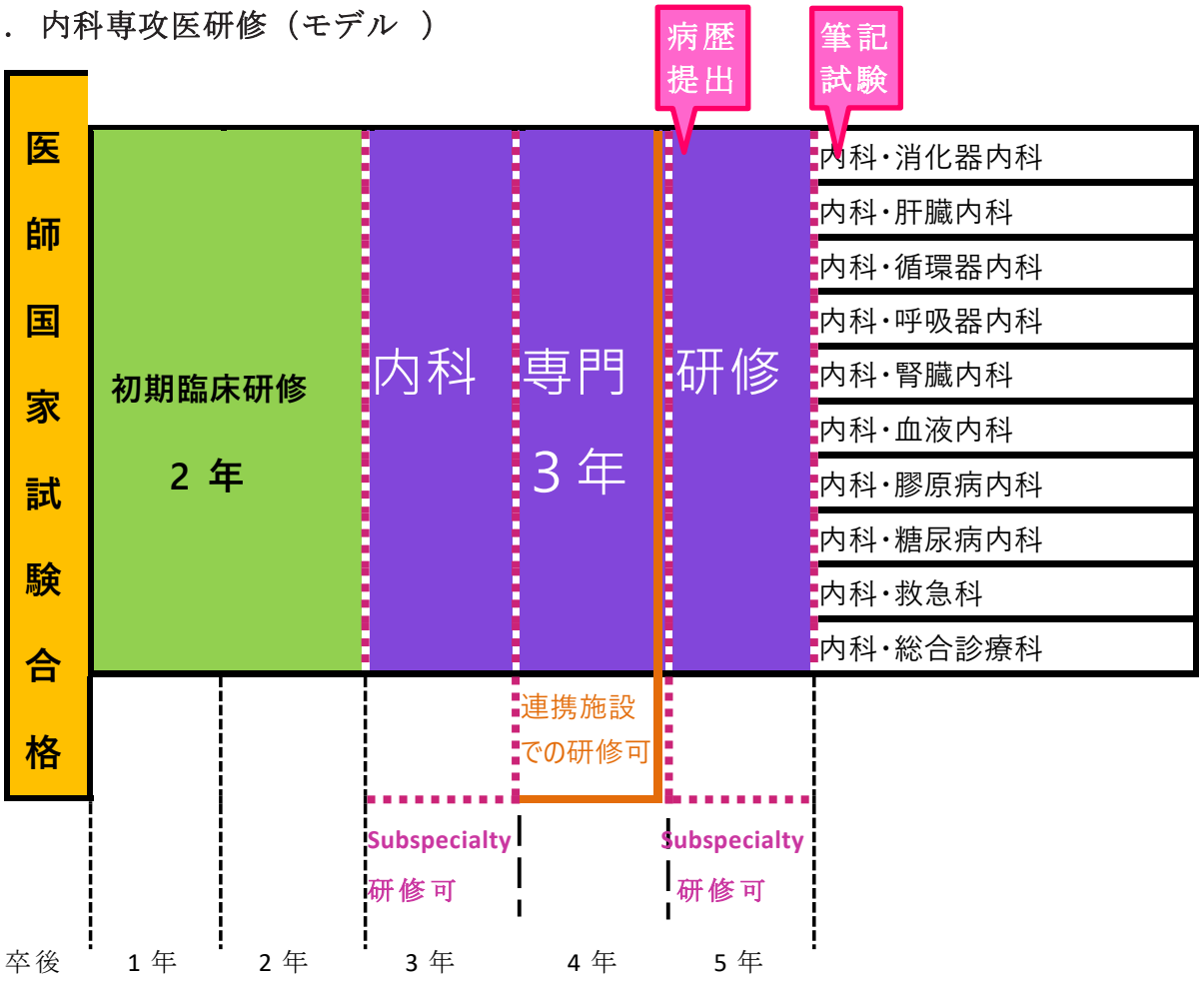


図 1．姫路赤十字病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である姫路赤十字病院 内科で，専門研修（専攻医）1 年目，1 年間の専門研修を行います．専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望，将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2 年目の連携施設を調整し，決定します．病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間，姫路赤十字病院内科で，さらに進んだ内科専門研修をします（図 1）．

なお，研修達成度によってはローテーション，連携施設内研修期間中にもサブスペシャルティ領域に踏み込んだ研修も可能であり，また，3 年目にはサブスペシャルティ研修も可能です（個々人により異なります）．

ローテーションモデル

1 年次

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
領域	消化器・肝臓			循環器		代謝・腎臓・膠原病			呼吸器		血液	
	希望に応じたローテーション　又は　サブスペシャルティ研修											

研修モデル：ローテーション研修　ローテーションする領域（臓器）並びに期間を希望に応じて，設定します．サブスペシャルティ重点研修　サブスペシャルティ研修についてもご相談に応じます．また，ローテーション研修とサブスペシャルティ研修の組み合わせも調整します．

2年次　地域研修

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
連携	連携 1			連携 2			連携 3			連携 4		

連携施設にて内科研修します．

主に，神経，内分泌，代謝，呼吸器，救急，総合内科などの領域について，当院での研修を補完したり，地域医療研 修を深めます．

1施設3ヶ月又は6ヶ月の期間を想定しています．

研修1年目 9 月に，専攻医の希望に沿えるように，研修管理委員会にて研修領域並びに研修施設を調整します．

3年次

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
選択	選択 1			選択 2			選択 3			選択 4		
	サブスペシャルティ研修											

原則，姫路赤十字病院内でさらに進んだ内科専門研修を行います．未修了領域，疾患についての研修についても調整します．3ヶ月を1単位として，1～4 領域を選択して研修を深めます．3年次を内科専門研修の総合実践ととらえて，内科領域全般をより深く研修することや，subspecialty 研修することも可 能です． 勿論，将来専攻する subspecialty 領域とは異なる領域の疾患，複雑疾患，救急疾患や緩和ケアなどを積極的に受け持つことが望まれます．

＊ 内科指導医 20 名（総合内科専門医 21 名）が在籍し，消化器，肝臓，循環器，内分泌（非常勤），代謝， 腎臓，呼吸器，血液，膠原病，アレルギー領域に subspecialty 専門医が各領域を担当・指導します．

＊ 当院内科の強みは，消化器（消化管，肝臓，胆膵），血液，腎臓，膠原病領域で，兵庫県播磨姫路医療圏には数少ない専門医が在籍していることと豊富な診療実績です．

＊ 神経内科領域は，連携施設での研修をプログラムしていますが，当院では主に脳神経外科が担当して，特に救急疾患，脳血管疾患，脳腫瘍，変性疾患などにつきましては院内研修で も十分に経験できます

（2021 年度実績： 脳血管 250 例，感染性・炎症性疾患 30 例，
免疫性疾患 30 例，末梢性疾患・筋疾患 23 例，変性疾患 3 例，
認知症疾患 21 例，正常圧水頭症 6 例，発作性疾患 95 例，
自律性神経疾患・脊椎脊髄疾患等 550 例，代謝性疾患等 13 例）

＊ がん診療に関しましては，地域がん診療連携拠点病院（高度型），ゲノム医

療地域連携拠点病院に指定され，手術療法を始め，化学療法，放射線治療，ペインクリニック，緩和ケア内科の各専門医が在籍し，あらゆるニーズに対応できます．さらに，兵庫県立がんセンターが連携施設に加わり，がん治療を目指す

専攻医には，豊富な症例並びに十分な研修環境を整えています．

＊ 救急領域は，専門科としての救急科はありませんが，地域中核総合病院であり，各専門診療科による幅広く，深い救急診療を経験できます．特に当院には消化器，呼吸器，循環器領域に専門医が在籍することに加え，連携施設での高次救急医療を研修することが出来ます．

＊ 剖検体数（実績）は 2021 年度 9 体、2020 年度 2 体，2019 年度 8 体です．

内科専門研修とサブスペシャルティー専門研修の連動研修（並行研修）の一例

医師経験	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
標準タイプ						内科専門医試験			
									サブ専門

特定の診療科に偏らず，満遍なく内科研修を行う

subspecialty 領域を内科専門研修中に並行して研修することもできます

3 年間で内科専門研修を修了することが必須要件で，この期間中に subspecialty 研修を含んだ内容を研修します

①サブスペシャルティー重点プログラム 1

サブスペシャルティーの研修に比重を置く期間を設ける（内科専門研修期間内にサブスペシャルティー研修合計 1 年型）

サブ重点 1								サブ専門医試験	

②サブスペシャルティー重点プログラム 2

サブスペシャルティーの研修に比重を置く期間を設ける（内科専門研修期間内にサブスペシャルティー研修合計 2 年型）

サブ重点 2							サブ専門医試験	

＊初期研修中にも，内科専門研修を含んだ内容を研修します

＊＊内科領域においての初期研修症例取扱いついて初期研修中（特に選択研修の 2 年目）に，主たる担当医として専攻研修と同様な症例経験を積み，質の担保された症 例（以下の条 件をみたす）に限り，内科専門研修として

取扱います.

1）日本内科学会認定指導医が直接指導をした症例であること.

2）主たる担当医師としての症例であること.

3）直接指導を行った日本内科学会指導医から，内科領域専門医としての経験症例とすることへの承認が得られること.

4）内科専門研修プログラムの統括責任者の承認が得られること.

5）内科領域の専門研修で必要とされる修了要件 160 症例のうち 1/2 に相当する 80 症例を上限とすること． 病歴要約への適用も 1/2 に相当する 14 症例を上限とすること.

＊＊＊内科専門研修医は，内科専門研修中のある時点で，プログラム統括責任者，サブスペシャルティー責任者と協議の上，標準タイプ，サブ重点タイプを選択できます.

12. 専攻医の評価時期と方法

（1）姫路赤十字病院臨床研修センターの役割

・姫路赤十字病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います.

・姫路赤十字病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について，日本内科学会 J-OSLER の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.

・ 3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴 要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.

・年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会 J- OSLER を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します.

・臨床研修センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を，毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査技師・放射線技師・臨床工 学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，臨床研修センターもしくは統括責任者が

各研修施設の研修委員会に委託して 3〜5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会 J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は日本内 科学会 J-OSLER を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います．

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します．

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が，姫路赤十字病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます．

・専攻医は web にて日本内科学会 J-OSLER にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います．

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．

3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で 登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します．

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します．

・担当指導医は subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います．

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会 J-OSLER に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します． これによって病歴記載能力を形成的に深化させます．

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施

設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに姫路赤十字病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します．

(4) 修了判定基準

1) 担当指導医は，日本内科学会 J-OSLER を用いて研修内容を評価し，以下 i)～vi) の修了を確認します．

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会 J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上，計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）の経験並びにそれらの登録完了（P.51 別表 1「姫路赤十字病院 疾患群 症 例 病歴要約 到達目標」参照）．

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関するプログラムで定める講習会受講

vi) 日本内科学会 J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2) 姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に姫路赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ，統括責任者が修了判定を行います．

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施 記録」は，日本内科学会 J-OSLER を用います．

なお，「姫路赤十字病院内科専攻医研修マニュアル」（ P.41）と「姫路赤十字病院内科専門研修指導者 マニュアル」（P. 48）と別に示します．

13. 専門研修管理委員会の運営計画

（P.39「姫路赤十字病院内科専門研修管理員会」参照）

1) 姫路赤十字病院内科専門研修プログラムの管理運営体制基準

i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者・プログラム管理者（副院長），事務局代表者，内科

subspecialty 分野の研修指導責任者（診療部長，診療副部長）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加を認めます（P.40 姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）．姫路赤十字病院内科専門研修管理委員会の事務局を，姫路赤十字病院臨床研修センターにおきます．

ii）姫路赤十字病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する姫路赤十字病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します． 基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，姫路赤十字病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います．

① 前年度の診療実績

a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)1 か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f）剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a）前年度の専攻医への指導実績，b）今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度専攻医数，ｄ）次年度の専攻医受け入れ可能人数．

③ 前年度の学術活動

a)学会発表，b)論文発表

④ 施設状況

a)施設区分，b)指導可能領域，c）内科カンファレンス，d）他科との合同カンファレンス，e）抄読会，f）机，ｇ）図書館，h）文献検索システム，i）医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j）JMECC の開催．

⑤ subspecialty 領域それぞれの専門医数 日本消化器病学会消化器専門医，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医，日本循環器学会環器専門医，日本内分泌学会専門医，日本糖尿病学会専門医，日本腎臓病学会専門医，日本呼吸器学会呼吸器専門医，日本血液学会血液専門医，日本神経学会神経内科専門医，日本アレルギー学会専門医（内科），日本リウマチ学会専門医，日本感染症学会専門医，日本救急医学会救急科専門医

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します． 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．

指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会 J-OSLER を用います．

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

労働基準法や医療法を順守することを原則とします．専門研修（専攻医）1 年目，3 年目は基幹施設である姫路赤十字病 院の就業環境に，専門研修（専攻医）2 年目は連携施設の就業環境に基づき，就業します．

（P.17「姫路赤十字病院内科専門研修施設群」参照）

基幹施設である姫路赤十字病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります．
- 姫路赤十字病院 非常勤医師として労務環境が保障されています．
- メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員）があります．
- ハラスメント委員会が整備されています．
- 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています．
- 敷地内に院内保育所があり，利用可能です．専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.17「姫路赤十字病院内科専門施設群」を参照

また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります．

16. 内科専門研修プログラムの改善方法

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会 J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，姫路赤十字病院内科専門研修プログラムや指導医あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会，姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は，日本内科学会 J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．

把握した事項については，姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します．

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．

・担当指導医，施設の内科研修委員会，姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は，日本内科学会 J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニターし，姫路赤十字病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して，姫路赤十字病院内科専門研修プログラムを 評価します．

・担当指導医，各施設の内科研修委員会，姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会 J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニターし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指 導を受け入れ，改善に役立てます．

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応 姫路赤十字病院臨床研修センターと姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会は，姫路赤十字病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて姫路赤十字病院内科専門研修プログラムの改良を行います．

姫路赤十字病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専 門医機構内科領域研修委員会に報告します．

17. 専攻医の募集および採用の方法

本プログラム管理委員会は，website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募 者は，姫路赤十字病院臨床研修センターの website の姫路赤十字病院医師募集要項（姫路赤十字病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会において，協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します．

（ 問い合わせ先）姫路赤十字病院臨床研修センター
E-mail: kensyu@himeji.jrc.or.jp
HP: http://www.himeji.jrc.or.jp/

姫路赤十字病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会 J-OSLER にて登録を行います．

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会 J-OSLER を用いて姫路赤十字病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管

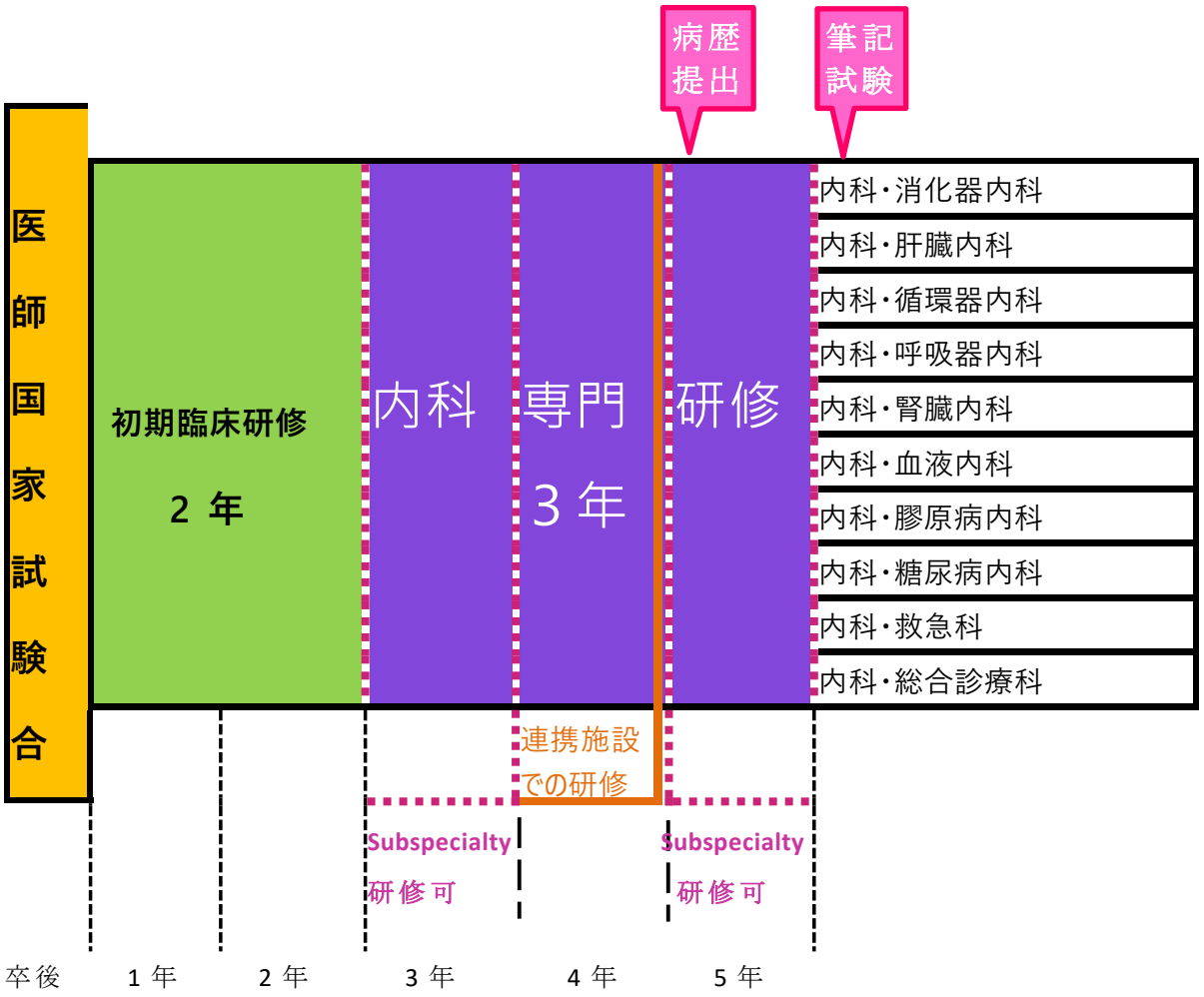
理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから姫路赤十字病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から姫路赤十字病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研 修をはじめる場合，あるいは，初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに姫路赤十字病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会 J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ，休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって， 研修実績に加算します．

留学期間は，原則として研修期間として認めません．

姫路赤十字病院内科専門研修施設群

図 1 研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）



姫路赤十字病院内科専門研修施設群

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	姫路赤十字病院	560	183	10	23	23	5
	姫路医療センター	405	209	7	13	19	1
	はりま姫路総合医療センター	736	306	11	46	41	5
	姫路聖マリア病院	440	110	1	9	7	0
	ツカザキ病院	406	90	4	8	8	5
	姫路中央病院	235	45	2	2	1	4
	国立循環器病センター	550	10	10	59	45	30
	兵庫県立がんセンター	377	164	9	15	17	1
	井野病院	100	70	7	4	2	0
	厚生病院	88	88	1	5	2	0
	多可赤十字病院	96	不定	3	1	1	0
	神戸赤十字病院	310	128	7	14	5	4
	岡山市立市民病院	400	200	11	28	19	11
	岡山赤十字病院	500	194	11	26	23	11

	岡山労災病院	358	145	5	15	8	4
	倉敷中央病院	1172	445	10	77	47	13
	愛媛県立中央病院	827	300	9	28	28	11
	高知医療センター	620	186	14	22	13	10
	大阪公立大学附属病院	965	247	12	101	74	14
	大阪医科薬科大学病院	852	299	9	54	49	14
	岡山大学病院	853	221	9	79	53	5
	神戸中央市民病院	768	241	10	39	44	21
研修施設合計		10693	3587	162	594	470	163

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
姫路赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
姫路医療センター	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○
はりま姫路総合医療セン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
姫路聖マリア病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ツカザキ病院	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	△	○
姫路中央病院	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○
国立循環器病研究セン	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×
兵庫県立がんセンター	○	○	△	△	×	×	○	○	×	△	×	×	×
井野病院	○	○	△	○	○	○	△	△	○	△	△	○	△
厚生病院	○	○	△	△	○	△	○	×	×	×	×	○	×
多可赤十字病院	○	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	○	△
神戸赤十字病院	△	○	○	△	○	△	○	△	○	△	△	△	○
岡山市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡山労災病院	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
愛媛県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高知医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪公立大学附属病	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡山大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

専門研修施設群の構成要件

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．姫路赤十字病院内科専門研修施設群は，兵庫県播磨姫路医療圏，近隣医療圏および兵庫県，岡山県，大阪府内の医療機関から構成されて います．

姫路赤十字病院は，兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な高度急性期・急性期病院であるとともに，地域の 病病・病診連携の中核施設です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろ ん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術 活動の素養を身につけます．

連携施設には，内科専攻医の多様な希望や将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，専門病院である兵庫県立がんセンター，国立循環器病研究センター，高次機能病院である神戸赤十字病院，岡山市立市民病院，岡山赤十字病院，岡山労災病院，倉敷中央病院，愛媛県立中央病院，高知医療センター，大阪医科薬科大学病院，岡山大学病院及び地域基幹病院である姫路医療センター，兵庫県立はりま姫路総合医療センター，姫路聖マリア病院，ツカザキ病院，さらには，地域密着型病院である姫路中央病院，井野病院，厚生病院，多可赤十字病院で構成しています．

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，姫路赤十字病院と異なる環境で，姫路赤十字病院単独では研修経験が少ない領域や疾患研修を補完でき，加えて地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした 診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

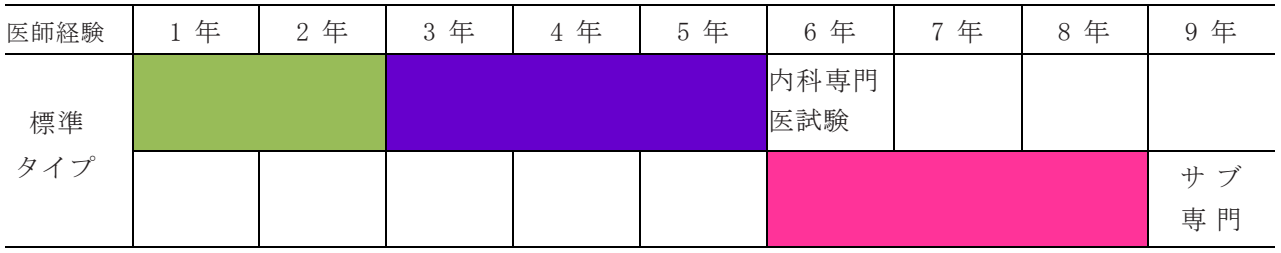
・専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価 などを基に，専門研修（専攻医）2 年目の連携施設を調整し決定します．

・病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間，姫路赤十字病院内科，さらに進んだ内科専門研修をします（図 1）． なお，研修達成度によっては subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）．

専門研修施設群の地理的範囲

兵庫県播磨姫路医療圏，近隣医療圏および兵庫県神戸市，岡山市，岡山県倉敷市，松山市，高知市，大阪市，大阪府豊中市，大阪府高槻市の医療機関から構成されています．

内科専門研修とサブスペシャルティー専門研修の連動研修（並行研修）の一例



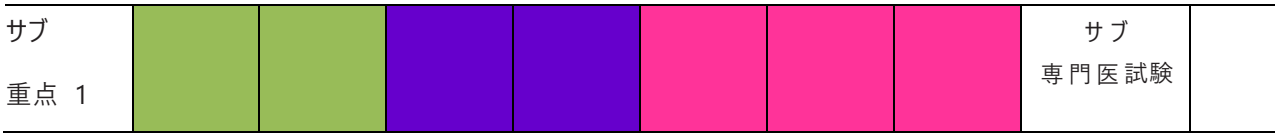
特定の診療科に偏らず，満遍なく内科研修を行う

サブスペシャルティー領域を内科専門研修中に並行して研修することもできます

3 年間で内科専門研修を修了することが必須要件で，この期間中にサブスペシャルティー研修を含んだ内容を研修します

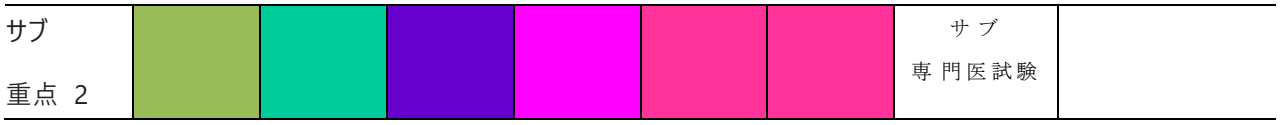
①サブスペシャルティー重点プログラム 1

サブスペシャルティーの研修に比重を置く期間を設ける（内科専門研修期間内にサブスペシャルティ研修合計 1 年型）



②サブスペシャルティー重点プログラム 2

サブスペシャルティーの研修に比重を置く期間を設ける（内科専門研修期間内にサブスペシャルティ研修合計 2 年型）



＊初期研修中にも，内科専門研修を含んだ内容を研修します

＊＊内科領域においての初期研修症例取扱いついて

初期研修中（特に選択研修の 2 年目）に，主たる担当医として専攻研修と同様な症例経験を積み，質の担保された症 例（以下の条 件をみたす）に限り，内科専門研修として取扱います.

1）日本内科学会認定指導医が直接指導をした症例であること.

2）主たる担当医師としての症例であること.

3）直接指導を行った日本内科学会指導医から，内科領域専門医としての経験症例とすることへの承認が得られること.

4）内科専門研修プログラムの統括責任者の承認が得られること.

5）内科領域の専門研修で必要とされる修了要件 160 症例のうち 1/2 に相当する 80 症例を上限とすること． 病歴要約への適用も 1/2 に相当する 14 症例を上限とすること.

＊＊＊内科専門研修医は，内科専門研修中のある時点で，プログラム統括責任

者，サブスペシャルティー責任者と協議の上，標準タイプ，サブ重点タイプを選択できます.

研修施設概要

基幹施設　姫路赤十字病院

1　姫路医療センター
2　はりま姫路総合医療センター
3　姫路聖マリア病院
4　ツカザキ病院
5　姫路中央病院
6　国立循環器病研究センター
7　兵庫県立がんセンター
8　井野病院
9　厚生病院
10　多可赤十字病院
11　神戸赤十字病院
12　岡山市立市民病院
13　岡山赤十字病院
14　岡山労災病院
15　倉敷中央病院
16　愛媛県立中央病院
17　高知医療センター
18　大阪公立大学附属病院
19　大阪医科薬科大学病院
20　岡山大学病院
21　神戸中央市民病院

1) 専門研修基幹施設

姫路赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・姫路赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 23 名在籍しています。 ・施設内に臨床研修センターと内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、併せて設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 10 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度：5 回、2022 年度：5 回、2021 年度実績：2 回、2020 年度実績：5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、姫路市救急

	医療合同カンファレンス、姫路循環器談話会、姫路呼吸器研究会、姫路消化器病研究会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・当プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・研修に必要な内科剖検(2023 年度実績：5 体、2022 年度実績：5 体、2021 年度実績：9 体、2020 年度実績：2 体、2019 年度実績：8 体、2018 年度実績：12 体、2017 年度実績：11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医中誌、PubMed、Clinical Key、Cochrane Library、DynaMed、UpToDate、今日の診療など文献検索、データベース、医療情報に加え、冊子体ジャーナル（和雑誌 108 誌、洋雑誌 81 誌購読）を取り揃えています。 ・UpToDate anywhere を自宅 PC や mobile 機器で、いつでも、どこでも、何時間でも利用できます。（但し、通信費用は自己負担です） ・Clinical Key：1,100 以上の書籍・教科書、600 以上のジャーナル、17,000 以上の医療動画など豊富な医療情報を入手できます。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績：4 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に自主研究・受託研究審査会を開催（2023 年度実績：6 回）しています。 ・日本内科学会総会や同地方会で積極的に発表しています（2013 年度実績：3 演題)。 ・Subspecialty 学会に積極的に発表しています（2023 年度実績：38 演題)。

指導責任者	プログラム統括責任者　筑木隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 姫路赤十字病院は，兵庫県はりま姫路医療圏の中心的な急性期総合病院であり，消化器，肝臓、循環器，血液，呼吸器，膠原病，腎臓，糖・代謝・内分泌，消化器内視鏡の専門診療を積極的に展開しています. 本プログラムの連携施設として，上記領域の専門診療並びに内科救急疾患診療を研修することにより，質の高い，幅広い診療領域に通じた，地域に根差した医療を実践できる内科専門医を育成することを目指しています. 姫路赤十字病院では、主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）までを通じて，確かな診断・治療はもとより，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医となれるように，しっかり指導します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　23 名 日本内科学会総合内科専門医　23 名 日本消化器病学会消化器専門医　11 名 日本肝臓学会肝臓専門医　5 名 日本循環器学会循環器専門医　6 名 日本糖尿病学会専門医　0 名 日本腎臓学会腎臓専門医　2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　3 名 日本血液学会血液専門医　4 名 日本リウマチ学会専門医　5 名 日本消化器内視鏡学会専門医　11 名
外来・入院患者数	外来患者延べ数　86,730　名（2023 年度実績） 新入院患者　6,255　名（2023 年度実績）
経験できる疾患群	· 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群、200 疾患の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	· 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	· 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	地域がん診療連携拠点病院（高度型） 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本放射線腫瘍学会認定協力施設 日本ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾅﾙﾗｼﾞｵﾛｼﾞｰ学会(IVR)専門医修練認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会認定研修関連施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設　　など

2) 専門研修連携施設

1. 姫路医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･姫路医療センター期間職員として待遇され賞与、超過勤務手当、 当直手当の支給あり、労務環境が保障されています。 ･専攻医用宿舎があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ･ハラスメントに関して安全衛生委員会が担当しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	･指導医は 13 名在籍しています（2024 年 4 月現在)。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：河村哲治）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･指導医も専攻医も研修状態を電子カルテ端末上でリアルタイムに管理できるよう IT 技術を駆使した本院独自の研修支援システムを構築します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2023 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（月曜会、若手医師のための呼吸器勉強会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（姫路市内の病院で共同開催の予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会と事務部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野において全疾患群について定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。3 分野（内分泌、腎臓、神経）については一部の疾患群で症例数が不足していますが連携施設での研修で十分な研修が可能です。 ･専門研修に必要な剖検（年間約 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月 1 回開催）しています。 ･臨床研究推進室（治験管理、自主研究管理）を設置し、受託研究審査会も毎月 1 回開催しています。

指導責任者	河村　哲治 【内科専攻医へのメッセージ】 ･姫路医療センターには、ややもするとありがちな出身大学間や人間関係の軋轢がなく、アットホームな雰囲気で研修に集中でき、従来の後期研修医からも人気を集めており、後期研修終了後は常勤医師に昇進する例が大多数を占めています。 ･本院独自に開発している研修支援システムは、細かな規則も含めたカリキュラム規定をすべて盛り込んで全専攻医が能率的に確実にカリキュラムを消化できるようにテクニカルな側面から強力に支援を行うものであり、リアルタイムに研修進行過程を視覚的に確認することが可能であり、安心して研修に集中することを支援します。 ･研修支援システムの補助により、内科全科同時研修進行を可能としており、希少症例もタイムリーに経験することを可能とし、無理のない学会報告をも可能としています。 ･サブスペシャルティの並行研修を行うことを強く意識していますが、それを希望する場合は研修支援システムの補助のもと研修進行状況を厳重に管理し実現に向けて最大限の支援を行います。 ･とくに呼吸器、消化器については先進的なサブスペシャルティ研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本消化器内視鏡学会専門医 12 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本糖尿病学会指導医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 8 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 9 名 日本呼吸器内視鏡学会指導医 5 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 5 名 日本リウマチ学会指導医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本感染症学会指導医 1 名　　ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	内科系の外来患者 7,440 名（1 ヶ月平均） 内科系の入院患者 5,892 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例について、腎疾患、神経疾患については一部の疾患群で症例数が不足しているが、その他は幅広く経験することができます。不足領域は連携病院での研修で十分研修できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　　等

2. 兵庫県立はりま姫路総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·兵庫県立病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医は 46 名在籍しています（下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はり姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）を定期的に開催・参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能です。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2023 年度 7 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	大内　佐智子 内科専攻医へのメッセージ 兵庫県立はりま姫路総合医療センターは,兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり，　可塑性のある，　地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．主担当医として,入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に,診断・治療の流れを通じて,社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざします。 当院はドクターヘリを擁する救命救急センターを併設しており，救急医療を数多く経験できます．救急科と内科で密接に連携して救急患者の診療に当たっています． すべての内科系専門領域をカバーしており、全分野において研修ができます。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会内科専門医 10 名、日本内科学会認定内科医 49 名、日本内科学会総合内科専門医 41 名、日本循環器学会循環器専門医 21 名、日本神経学会脳神経内科専門医 6 名・指導医 4 名、日本糖尿病学会専門医 5 名・指導医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名・指導医 4 名、日本消化器病学会専門医 8 名・指導医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名・指導医 4 名、日本肝臓学会専門医 4 名・指導医 2 名、日本腎臓学会専門医 2 名・指導医 1 名、日本透析医学会専門医 3 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名・指導医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 3 名・指導医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本緩和医療学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	内科系診療科外来患者　9,972 名(2023 年度 1 ヶ月平均)、内科系診療科入院患者 812.3 名 (2023 年度 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本病院総合診療医学会認定基幹施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本超音波医学超音波専門医研修施設、心エコー図専門医制度研修施設、日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設、日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本心臓リハビリテーション認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会卵円孔開存閉鎖術実施施設、日本成人先天性心疾患学会認定成人選定性心疾患専門医連携修練施設、ペースメーカ移植術認定施設、埋込型除細動器移植術認定施設、両心室ペースメーカ移植術認定施設、両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設、経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）認定施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、MitraClip 実施施設、WATCHMAN/左心耳閉鎖システム実施認定施設、PFO 閉鎖術実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、植込み型 VAD 管理施設、日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本内分泌学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会連携施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設)、日本血液学会研修教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本緩和医療学会認定研修施設、ほか

3. 姫路聖マリア病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修病院基幹型研修指定病院で、NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･姫路聖マリア病院正職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処するにメンタルヘルスケアシステムがあります。 ･ハラスメント委員会（暴言、暴力の窓口）が院内に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	･指導医が 9 名在籍しています（下記)。 ･内科専攻医研修プログラム委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 19 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2022 年度実績 2 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2022 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス(姫路聖マリア病院オープンセミナー2022 年度実績 15 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医にＪＭＥＣＣ受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・腎臓・代謝・血液・感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･2021 年度行われた剖検数は 2 体です。専門研修に必要な剖検数を得られる予定です。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・今日の診療やメディカルオンラインなどのデータベースに加え、冊子体ジャーナルを 85 タイトル、電子ジャーナル 16 タイトルを取り揃えております。
指導責任者	松村　正 【内科専攻医へのメッセージ】 　姫路聖マリア病院は，救急医療から透析，緩和医療まで広く地域に貢献している急性期病院です．主担当医として，入院から退院までの全人的医療を実践できる内科専門医になります．

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本消化器病学会消化器病専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名 日本老年病学会老年病専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	内科外来患者数 3,634 名（2022 年度・1 か月平均）　入院患者 128 名（2022 年度・1 か月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，稀な疾患を除けば幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	併設された老健施設やホスピスの症例を通して地域医療・病診連携を経験することができます.
学会認定施設（内科 系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会認定専門研修教育施設　など

4. ツカザキ病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ·研修に必要な図書室とオンライン購読可能な書籍を多数用意、個別のインターネット環境を整備、また電子カルテ上で参照可能な診療データベースを利用できます。 ·ツカザキ病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に 24 時間体制の院内託児所があり、24 時間 365 日利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	·日本内科学会指導医が 8 名在籍しています（下記)。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2022 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（病診・病病連携カンファレンス 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2020 年度実績 3 演題）を予定しています。
指導責任者	飯田 英隆 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は姫路市西部に位置し、病床数は 406 床で HCU6 床、SCU12 床を有し、播磨姫路医療圏の急性期・救急医療を担っています。地域の 1 次～3 次の救急、および高度専門医療までの幅広い症例を受け入れ、全人的で EBM に基づいた医療を実践し、「患者本位の医療」を行っています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　8 名 日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医・指導医 2 名 日本消化器病学会専門医 5 名・指導医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名・指導医 1 名 日本消化管学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 1 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 1 名 日本糖尿病学会専門医・指導医 1 名
外来・入院患者数 （内科全体の）	内科系外来患者 4,165 名（1 か月平均）　内科系入院患者数 3,083 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設

5. 医療法人公仁会　姫路中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院ではありません. ・研修に必要なインターネット環境があります. ・姫路中央病院正職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります ・パワーハラスメント防止規定が制定されており，相談窓口が設置されています ・敷地内に託児所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医が 2 名在籍しています（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に 設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染予防対策講習会を定期的に開催（2016 年度実績　医療倫理 0 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余 裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間 的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的 余裕を与えます. ・臨床神経内科医会を定期的に当院で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的 余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，神経の分野で専門的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・2016 年に行われた剖検数は 2 体です．専門研修に必要な剖検数を得られる予定です
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本神経学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています．日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	田畑　　昌子 【内科専攻医へのメッセージ】 姫路中央病院は，脳神経系と腹部外科を中心とした専門性の高い病院で，急性期から慢性期まで広く診療している病院で地域に貢献しています．回復期リハビリ病棟や包括ケア病棟を開設 しているため主担当医として，入院から退院までの全人的医療を実践できる内科専門医になります
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　 1 名，日本内科学会総合内科専門医　 1 名 日本神経学会専門医　 2 名，日本神経学会指導医　1 名 日本認知症学会専門医　1 名
外来・入院患者数	神経内科外来患者数　 2,440 名（1 ヶ月平均）入院患者 49 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，神経疾患は全ての疾患群で数々の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	地域医療機関や介護施設との連携等を通して地域医療・病診連携を経験することができます
学会認定施設	（内科系）日本神経学会専門医制度，准教育施設

6. 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・当院では内科領域を専門医機構・学会の決定に沿った専門研修プログラムを用意しています。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント相談窓口が人事課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は 59 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 28 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2019 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 4 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2019 度 353 演題）。
指導責任者	野口　暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 59 名 日本内科学会総合内科専門医 45 名 日本循環器学会循環器専門医 31 名 日本糖尿病学会専門医 9 名 日本内分泌学会専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 16 名 日本老年医学会専門医 2 名

外来・入院患者数	外来患者　640 名（1 日平均）　　入院患者　1,036 名（月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設など

7. 兵庫県立がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修指定病院（協力型）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・兵庫県会計年度任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康なやみ相談室）が、兵庫県職員健康管理センター内にあります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。（休憩室は男女共用） ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 利用時間は、7:30～18:45（平日のみ）です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医が 15 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、受講のための時間を確保します。 （2019 年度実績：医療倫理 2 回、医療安全 10 回、感染対策 10 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、受講のための時間を確保します。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 12 回）、専攻医に受講を義務付け、受講のための時間を確保します。 ・地域参加型のカンファレンス（学術講演会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、受講のための時間を確保します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、 内分泌、呼吸器及び血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績 1 演題）をしています.
指導責任者	里内 美弥子 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院及びゲノム医療拠点病院であり，連携施設としてがんの基礎的，専門的医療を研修できます. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までを受け持ち，診断・治療の流れを通じて，患者の社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指していただきます.
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会指導医　15 名 ・日本内科学会総合内科専門医　17 名 ・日本消化器病学会消化器専門医　16 名 ・日本循環器学会循環器専門医　2 名 ・がん薬物療法専門医 6 名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医　7 名 ・日本血液学会血液専門医　4 名 ・日本肝臓学会肝臓専門医　4 名 ・日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名 ・日本消化器内視鏡学会専門医　10 名

外来・入院患者数 （内科全体の）	・内科系外来患者　219 名（2020.4～2021.1 までの 1 日平均） ・内科系入院患者　108 名（同上）
経験できる疾患群	13 領域のうち，がん専門病院として 7 領域 23 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく，高齢者にも対応したがん患者の診断，治療，緩和ケア、などを通じて，地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会教育関連病院 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本血液学会血液研修施設 ・日本輸血・細胞治療学会指定施設 ・日本医学放射線学会専門医総合修練施設 ・日本放射線腫瘍学会認定施設 ・日本臨床検査医学会認定病院　・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ・日本消化器内視鏡学会認定施設 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本核医学学会専門医教育病院 ・日本 IVR 学会専門医修練施設 ・日本臨床細胞学会教育研修施設

8. 井野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院ではありません. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・井野病院の病院正職員として労務環境が保証されます. ・メンタルストレスに適切に対処する部署が総務課にあります. ・ハラスメント委員会が院内に設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されて います.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医が４名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設 置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し(2015 年度実績：医療倫理 1 回， 医療安全 2 回，感染対策 2 回)，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えま す. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間 的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(地域の他病院と連携した訪問診療カンファレンス)を定期的に開催 し，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，呼吸器，循環器，神経，代謝の分野 で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	2015 年 6 月 27 日，第 208 回日本内科学会近畿地方会において，凍瘡様皮疹・発熱で発症したシェーグレン症候群，悪性リンパ腫の 1 例を報告しています． 他学会，研究会においても症例報告を行っています.
指導責任者	森本　　真輔 【内科専攻医へのメッセージ】 高齢化社会到来により地域密着型の内科主体の病院として，急性期から慢性期にかけての医 療・介護を担っております．急性期医療は適宜基幹病院と連携しています．近隣の開業医，老 人保健施設とも連携をもち，入所者の急変にも対応しています．在宅医療（訪問診療・訪問看 護・訪問リハビリテーション）にも力を入れています．血液透析も行っております.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　　5 名 日本消化器病学会専門医　　2 名 日本消化器内視鏡学会指導医　1 名 日本胆道学会指導医　　1 名 日本糖尿病学会専門医　　1 名 日本呼吸器学会専門医　　1 名 日本アレルギー学会専門医　　1 名, 日本リウマチ学会専門医　　1 名, 日本血液学会専門医　　1 名 が在籍しています.
外来・入院患者数 （内科全体の）	内科外来患者数 212.1 名/日(H27 年度平均) 平均入院患者数 69.1 名(H27 年度平均)

経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群のうち，稀な疾患を除けば幅広く経験することが出来ます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	併設された老人保健施設，訪問看護ステーションなどあり，通所リハビリテーションや訪問診療を通して地域医療・介護・病診連携を経験することができます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会関連施設，日本胆道学会指導施設

9. 医療法人社団綱島会　　厚生病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院ではありません。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・厚生病院の病院正職員として労務環境が保証されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。女性医師が常勤で 1 名、非常勤で 3 名勤務しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医が 6 名在籍しています。 ・医療安全・感染対策委員会・衛生委員会を定期的に開催し(2015 年度講演会実績、医療安全 3 回、感染対策 2 回.医薬品安全管理 2 回)職員の認識の向上に努めています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、代謝 の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	2016 年糖尿病学会，研究会においても研究発表，消化器病に関する雑誌投稿を行っています.
指導責任者	松下　健次 【内科専攻医へのメッセージ】 高齢化社会到来により地域密着型の内科主体の病院として、急性期から慢性期にかけての医療・介護を担っております。急性期医療は適宜基幹病院と連携しています。近隣の開業医、老人保健施設とも連携をもち、入所者の急変にも対応しています。在宅医療（訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション）にも力を入れています。血液透析も行っております。当院が協力病院となっているのは、施設 14 施設、医院 14 医院あります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合指導医 2 名、日本内科学会認定内科医 3 名 日本消化器病学会専門医指導医 3 名、日本消化器病学会専門医 5 名 日本消化器内視鏡学会指導医 2 名　　専門医 3 名 日本肝臓学会専門医指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 3 名研修指導医　2 名 日本呼吸器学会専門医 2 名　が在籍しています。
外来・入院患者数 （内科全体の）	内科外来患者数 50199 名/年(R1 年度)　入院患者数 1691 名/年(R1 年度)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	併設された介護保険療養棟、老人保健施設、訪問看護ステーション、デイケアー、デイサービスなどあり、訪問リハビリテーションや訪問診療を通して地域医療・介護・病診連携を経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会関連施設、日本糖尿病学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器がん検診学会認定指導施設、日本プライマリケア学会研修指定病院

10. 多可赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・病院敷地内の医師住宅を使用できます。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日常生活を含めた研修生活に相談・対応する部署（総務課）があります。 ・同一敷地内に医師住宅があるため、休憩、更衣、シャワーなどができます。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・姫路赤十字病院と連携し、時間的余裕を与えます。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全年 2 回、感染対策年 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・総合診療、訪問診療、行政・介護事業所とのカンファレンス等、医療・介護連携の実際を経験できます。
認定基準 4)学術活動の環境	・医師会、近隣病院等の病院が主催する学術集会に参加することができます。
指導責任者	梶本 和宏 院長 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、長閑な山間農村に位置していますが、人口の高齢化に伴い、複合した疾患や、介護・生活問題を同時に抱えている患者さんが少なくありません。そのため当院の医療方針を次のように定め、地域内の医院、介護施設、行政、社会福祉協議会等と日常的な連携を図り、地域の統合力を発揮して包括的な医療を推進しています。 ◆医療・ケアの一体的提供により、「老後に至るまで住みなれた居宅・地域で安心して住み続けることができる」包括的な医療・ケアを担う ◆地域完結医療・ケア体制の構築のために、近隣医療機関・介護施設等の総合力を発揮した医療・ケアを推進する ◆院内各種専門職間で包括医療・ケアの共通認識を醸成し、入院から在宅療養に至るまで一貫した医療・ケアの提供を推進する 地域（包括）医療は、住民生活に身近に関わりながら住民の生老病死とそれに伴う生活問題について、①医療を行い、②ケア（健康づくりも含めて）に関わる専門職・社会資源と連携・協働し、③生存の質を高めるための住民自身の実践を育成・支援し、④そのことを通して地域づくりにも関わる医療でなければならないと思います。様々な専門職、施設、行政の役割などについての幅広い理解を有した内科専門医となるべく、当院ならではの有意義な研修を受けられることを期待します。
指導医数（常勤医）	1 名
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者 119 人（1 日平均）、入院患者 74 人（1 日平均）
経験できる疾患群	患者とのファーストコンタクトの場となる地域密着型病院として、あらゆる疾患群の診療を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携など実践的なへき地医療を経験できます。
学会認定施設（内科系）	

11.神戸赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度教育病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（心療内科）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医は 14 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログ ラム管理者、プログラム管理委員会委員長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修セン ターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を 義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間 的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（HAT 呼吸器疾患検討会等）を定期的 に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのため の時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち全分野（少なくとも７ 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（すくなくても 35 以上の疾患群）に ついて研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研修必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表（2017 年実績 15 演題）をしています。
指導責任者	土井智文　循環器内科部長 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸赤十字病院は兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であり、西播医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必 要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指 します。主担当医として、入院から退院まで啓示的に、診断・治療の流れを通 じて、社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる 内科専門医を目指します。

指導医数 （常勤医）	内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医（内科） 1 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者　576.4 名（前年度 1 日平均患者 数） 入院患者　311.4 名（前年度 1 日平均患者
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要 な技術・技能を、実際の 症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく、超高齢化社会に対応 した地域に根ざした医 療、病診・病病連携な ども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　など

12. 岡山市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·後期研修医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専門医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です.	
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	·指導医は 28 名在籍しています（下記）. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（内科主任部長）（総合内科専門医および指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後臨床教育研修センターを設置しています. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（web 開催含む）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（岡山市立市民病院病診連携研修会（3S 会、3 回）を定期的に開催し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専門医に JMECC 受講（2020 年度当院開催 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床教育研修センターが対応します. ·特別連携施設群（光生病院、岡山市立せのお病院、美作市立大原病院、岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院、玉野市立玉野市民病院、井原市立井原市民病院、矢掛町国民健康保険病院、高梁市国民健康保険成羽病院、備前市国民健康保険市立吉永病院、真庭市国民健康保険湯原温泉病院、医療法人仁徳会森下病院、医療法人東浩会石川病院、総合病院岡山赤十字病院玉野分院、笠岡市立市民病院、医療法人清梁会高梁中央病院、医療法人井口会総合病院落合病院、赤磐医師会病院、医療法人和陽会まび記念病院、社会医療法人緑壮会金田病院、特定医療法人中島病院、社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院）は岡山県内の中小自治体病院を主体に形成されており、特別連携施設の専門研修では、電話（またはインターネット電話）や週 1 回の岡山市立市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.	
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、総合内科、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 11 体、2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 11 体）を行っています.	
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2020 年度実績 10 回）しています. ·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2020 年度実績 10 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2020 年度実績演題）をしています.	

指導責任者	狩山　和也 【内科専門医へのメッセージ】 　岡山県岡山市西部を中心とした医療圏の重要な急性期病院（『岡山 ER』と称する救急医療拠点および DMAT を擁する災害医療拠点）であり、岡山県南東部に加え岡山県内の医療圏全域にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.	
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか	
外来・入院患者数	外来患者 4,806 人（1 ヶ月平均）　入院患者 5,081 人（1 ヶ月平均延数）　（新規入院患者 412 人（1 ヶ月平均)）	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます.	
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.	
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.	
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 1 など	

13. 岡山赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	· 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 · 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 · 岡山赤十字病院シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 · メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 · ハラスメント委員会が院内に整備されています。 · 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 · 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログ ラムの 環境	・ 指導医が 26 名在籍しています（下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 医療 安全 10 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与えます。 ・ ＣＰＣ を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間 的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務 付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	佐久川 亮 【内科専攻医へのメッセージ】 岡山赤十字病院は、岡山県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に当院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数　（常勤医）	日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本循環器学会認定循環器専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本消化器病学会専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、日本呼吸器学会指導医 3 名、日本消化器内視鏡学会指導医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名、日本老年医学会認定老年病専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本内科学会専門医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ指導医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本血液学会血液指導医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 2 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名、日本消化器病学会指導医 1 名、日本臨床腫瘍学会指導医 2 名、日本老年医学会指導医 2 名、日本老年医学会認定老年病指導医 2 名、日本血液学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名、日本消化器病専門医 1 名、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名、日本脈管学会専門医 1 名、人間ドック学会人間ドック健診指導医 1 名、人間ドック学会人間ドック健診専門医 2 名、日本エイズ学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本血液内科学会認定血液指導医 1 名、日本血液内科学会認定血液専門医 1 名、日本抗加齢学会認定専門医 1 名、日本甲状腺学会専門医 1 名、日本消化器学会消化器病専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会認定専門医 1 名、日本消化器内視鏡専門医 1 名、日本消化器病学会消化器病専門医 1 名、日本消化器病学会認定専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本神経学会認定指導医 1 名、日本神経学会認定専門医 1 名、日本腎臓学会指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本胆道学会指導医 1 名、日本胆道学会認定指導医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本糖尿病学会認定専門医 1 名、日本透析学会指導医 1 名、日本透析学会専門医 1 名、日本内科学会専門医 1 名、日本内科学会認定指導医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 1 名、日本脳卒中学会指導医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名、日本不整脈学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会暫定指導医 1 名、日本老年医学会専門医 1 名、日本老年医学会老年専門医 1 名、日本膵臓学会認定指導医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 7, 157 名（1 ヶ月平均延数）新入院患者 513 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある　13　領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・　技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

14. 岡山労災病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・岡山労災病院嘱託医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・ハラスメントに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています（2022 年 5 月現在。下記）. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者 内科部長，プログラム管理者　呼吸器内科部長）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（岡南臨床フォーラム，岡山ろうさい病院キャンサーボード，水曜日に胸部画像をみる会，岡南消化器病研究会，臨床に役立つ循環器の会；　2021 年度実績 12 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2018 年度開催 1 回、参加者 5 名、2019 年度開催 0 回、2020 年度開催 0 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します.
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくても 11 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうち少なくても 60 疾患群以上について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 7 体、2019 年度 10 体、2020 年度 4 体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2021 年度実績 22 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2021 年度実績 11 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	矢野　朋文 【内科専攻医へのメッセージ】 　岡山ろうさい病院は岡山市南区～玉野市を主な医療圏とする地域の中心的な急性期病院です．患者を統合的・継続的な視点から診ることを重要視し，急

	性期治療ばかりでなく地域密着型施設との連携を十分に学ぶことができます．また，アスベスト関連疾患研究センターをはじめとして呼吸器領域における研究体制が充実しており，リサーチマインドの形成には大変適した環境と言えます．このプログラムに則った内科専門研修を経て，幅広い診療能力と問題解決能力をベースに，チーム医療，地域医療のリーダーとして職務を遂行する力を身につけます．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本消化器内視鏡学会専門医 3 名 日本肝臓学会専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 3 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名 心血管インターベンション学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,820 名（1 ヶ月平均）　入院患者 493 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

15. 倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・倉敷中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ・ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医が 77 名在籍しています（専攻医マニュアルに明記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：医療倫理 4 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝,腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 6 演題）をしています. 又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2022 年度実績 139 演題)
指導責任者	石田　直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です. 内科の分野でも入院患者の25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域13分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 77 名、日本内科学会総合内科専門医 47 名、 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 15 名、 日本内分泌学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 11 名、 日本腎臓病学会専門医 8 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、 日本血液学会血液専門医 9 名、日本神経学会神経内科専門医 8 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 4 名、 日本肝臓学会専門医 7 名、 日本老年医学会専門医 4 名、 臨床腫瘍学会 4 名、消化器内視鏡学会専門医 16 名ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数 270,800 人/年（2022 年度実績） 入院患者数 13,255 人/年（2022 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診 療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

16. 愛媛県立中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※県非常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（総務医事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医は28名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（主任部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2021年度10回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 11 体、2020 年度実績 11 体、2019 年度 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015年度実績10回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	副院長（呼吸器内科）　中西　徳彦 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であり、高度救命救急センターを併設しています。コモンディジーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診断・治療までと、幅広い患者を経験できます。さらに地域の連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医　8名、日本循環器学会循環器専門医　7名 日本内分泌学会専門医　2名、日本糖尿病学会専門医　5名 日本腎臓病学会専門医　2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医　6名 日本血液学会血液専門医　6名、日本神経学会神経内科専門医　3名 日本アレルギー学会専門医（内科）　2名、日本リウマチ学会専門医　　0名 日本肝臓学会専門医　2名、臨床腫瘍学会専門医　2名 消化器内視鏡学会専門医　7名、日本感染症学会専門医　2名 日本老年学会専門医数　4名　ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者 33,819 名（1ヶ月平均）　入院患者 19,997 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診 療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本感染症学会連携研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設、非血縁者間骨髄移植認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞採取（移植）認定施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定総合診療医・家庭医後期研修プログラム認定施設 日本東洋医学会研修施設 ステントグラフト実施認定施設　など

17. 高知医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(リエゾンナース，臨床研修管理センター)があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	・指導医が 22 名在籍しています(下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を開催(2020 年度実績 医療倫理 1 回， 医療安全 1 回，感染対策 1 回 ※すべて e-learning にて実施)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2020 年度実績 12 回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そ のための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 14 分野すべてにおいて、定常的に専門研修が可能 な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2018 年度実績 4 演題)をしています.
指導責任者	菅野 尚 【内科専攻医へのメッセージ】 高知医療センターは、6 つの診療機能(がんセンター、循環器病センター、地域医療センター、総合周産期母子医療センター、救命救急センター、こころのサポートセンター)を有しており、高知県内の協力病院と連携して人材の育成や地 域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 本プログラムは初期臨床研修 終了後に大学病院などの内科系診療科が連携して、質の高い内科医を育成するも のです。 また、単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位のサービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 3 名 日本内分泌学会専門医 1 名 (2021.2 時点)
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者 16,312 名(1 ヶ月平均)入院患者 13,893 名(1 ヶ月平均)(2019 年) 外来患者 13,384 名(1 ヶ月平均)入院患者 12,608 名(1 ヶ月平均)(2020 年)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患 群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診 療連携	がんの急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応したがん患者の診断，治療，緩 和ケア，終末期医療などを通じて，地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ロータブレーター施行認定施設 エキシマレーザー施行認定施設 両室ペースメーカー施行認定施設 植込み型除細動機施行認定施設 TAVI 認定施設 経皮的大動脈弁置換術施行認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 骨髄バンク採取・移植認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医制度研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設

18. 大阪公立大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修指定病院（基幹型研修指定病院）です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります. ･ハラスメント委員会が大阪市立大学に整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	･指導医が 101 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績　医療安全 9 回，感染対策 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2020 年度実績 19 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2020 年度実績　11 演題）をしています.
指導責任者	日野雅之（大阪公立大学内科連絡会教授部会会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 101 名，日本内科学会総合内科専門医 74 名， 日本消化器病学会消化器専門医 36 名，日本アレルギー学会専門医（内科）4 名， 日本循環器学会循環器専門医 18 名，日本リウマチ学会専門医 4 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名，日本感染症学会専門医 7 名， 日本腎臓病学会専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 11 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 29 名，日本老年学会老年病専門医 1 名， 日本血液学会血液専門医 14 名，日本肝臓学会肝臓専門医 13 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,264 名（1 ヶ月平均延数）　入院患者 4,673 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院, 日本消化器病学会認定施設, 日本呼吸器学会認定施設, 日本糖尿病学会認定教育施設, 日本腎臓学会研修施設, 日本アレルギー学会認定教育施設, 日本消化器内視鏡学会認定指導施設, 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設, 日本老年医学会認定施設, 日本肝臓学会認定施設, 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設, 日本透析医学会認定医制度認定施設, 日本血液学会認定研修施設, 日本神経学会認定教育施設, 日本脳卒中学会認定研修教育病院, 日本呼吸器内視鏡学会認定施設, 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設, 日本東洋医学会研修施設, 日本臨床腫瘍学会認定研修施設, 日本肥満学会認定肥満症専門病院, 日本感染症学会認定研修施設, 日本がん治療認定医機構認定研修施設, 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設, ステントグラフト実施施設, 日本認知症学会教育施設, 日本心血管インターベンション治療学会研修施設, 日本リウマチ学会認定教育施設など

19. 大阪医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 大阪医科薬科大学病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 54 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績　医療倫理 4 回，医療安全 6 回，感染対策 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2019 年度実績 18 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	星賀正明（医療プロフェッショナル支援室長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪医科薬科大学病院は、大阪三島医療圏に属し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは堺市立総合医療センターと連携して内科医を育成することを目的とし，特に大学病院ならではの高度医療や多職種チーム医療を経験していただきます。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。どうぞ安心して、本プログラムにご参加ください。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 54 名，日本内科学会総合内科専門医 49 名 日本消化器病学会消化器専門医 19 名，日本循環器学会循環器専門医 22 名， 日本内分泌学会専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 10 名， 日本腎臓病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名， 日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 8 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本リウマチ学会専門医 19 名， 日本感染症学会専門医 2 名，日本救急医学会救急科専門医 6 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 12,027 名（1 ヶ月平均）　入院患者 7,875 名（1 ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

20. 岡山大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·岡山大学病院レジデントとして労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·休憩室，更衣室，仮眠室，当直室等が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの 環境	･指導医が在籍しています（下記)。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべて（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および 救急の分野）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会，同地方会，その他国内外の内科系学会で多数の学会発表をしています.
指導責任者	和田淳 【内科専攻医へのメッセージ】 岡山大学病院の基本理念は「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てます。」です。本院は高度先進医療の推進、遺伝子細胞治療などの先端的治療の開発において、全国でもっとも進んだ施設であるとともに、中国四国地方中心に約 250 の関連病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動も 行っています。当院の内科研修では、ジェネラルからエキスパートまで質の高い内科医を育成します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、リサーチマインドを持って医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とします。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 79 名、 日本内科学会専門医 8 名、 日本内科学会総合内科専門医 58 名、 日本消化器病学会消化器専門医 28 名、 日本循環器学会循環器専門医 24 名、 日本内分泌学会専門医 11 名、 日本糖尿病学会専門医 12 名、 日本腎臓病学会専門医 16 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本肝臓学会専門医 7 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 43,087.9 名（1 ヶ月平均延数）2021 年 4 月～2022 年 1 月 入院患者 17,083.4 名（1 ヶ月平均延数）2021 年 4 月～2022 年 1 月
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本リウマチ学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本老年医学会老年病専門医認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本がん治療認定医機構がん治療認定医制度認定研修施設 日本高血圧学会認定高血圧症専門医制度認定施設 日本脳卒中学会脳卒中専門医制度認定研修教育病院 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本肥満学会専門医制度認定肥満症専門病院 日本不整脈学会・日本心電学会合同不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育病院 日本病院総合診療医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

21. 神戸市立医療センター中央市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置及び産業医を配置しています。 ・ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 38 名在籍しています（下記）。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全：6 回、感染対策：2 回、医療倫理：1 回）し、　専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー　など　2025 年度実績 32 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 27 体、2024 年度実績 25 体、2025 年度実績 21 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究推進センターを設置しています。 ・定期的に IRB、受託研究審査会を開催（2025 年度実績各 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 8 演題）をしています。

指導責任者	古川　裕 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER（救命救急室）、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 26,000 人以上、救急車搬入患者数も 8,000 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 39 名 日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本アレルギー学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本呼吸器学会老年病専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門医 17 名　　ほか
外来・入院 患者数	外来患者　34,980 名（1 ヶ月平均）2025 年度 入院患者　20,318 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある　13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム　基幹施設 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設 呼吸器専門研修プログラム　基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本環境感染学会教育施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本禁煙学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本臨床腫瘍内科学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 救急科専門医指定施設　　など

22. 姫路赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会

姫路赤十字病院

筑木　隆雄	（プログラム統括責任者，プログラム管理者，消化器内科分野）
平松　靖史	（血液・呼吸器分野責任者，副院長）
中村　進一郎	（肝臓分野責任者，副院長）
高谷　昌宏	（消化器消化管分野責任者）
多田　俊史	（肝臓内科分野）
香川　英俊	（腎臓・膠原病・代謝分野責任者）
藤尾　栄起	（循環器内科分野責任者）
真下　周子	（呼吸器内科分野責任者）
畑　　亜希子	（事務局代表，臨床研修センター事務担当）

連携施設担当委員

姫路医療センター	河村　哲治
県立はりま姫路総合医療センタ	大内　佐智子
姫路聖マリア病院	松村　正
ツカザキ病院	飯田　英隆
兵庫県立がんセンター	津田　政広
姫路中央病院	田畑　昌子
国立循環器病研究センター	野口　輝夫
井野病院	森本　真輔
厚生病院	松下　健次
多可赤十字病院	梶本　和宏
神戸赤十字病院	川島　邦博
岡山市立市民病院	狩山　和也
岡山赤十字病院	岡崎　守宏
岡山労災病院	矢野　朋文
倉敷中央病院	石田　直
愛媛県立中央病院	中西　徳彦
高知医療センター	菅野　尚
大阪公立大学附属病院	日野　雅之
大阪医科薬科大学病院	星賀　正明
岡山大学病院	小比賀　美香子
神戸中央市民病院	古川　裕

オブザーバー

内科専攻医代表 1

内科専攻医代表 2

姫路赤十字病院　　疾患群 症例 病歴要約 到達目標

	内容	専攻医 3 年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医 3 年修了時 修了要件	専攻医 2 年修了時 経験目標	専攻医 1 年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	7 以上※1※2	6 以上※1		3※1
	循環器	10	7 以上※2	6 以上		3
	内分泌	4	2 以上※2	2 以上		3※4
	代謝	5	3 以上※2	3 以上		
	腎臓	7	5 以上※2	4 以上		2
	呼吸器	8	6 以上※2	5 以上		3
	血液	3	2 以上※2	2 以上		2
	神経	9	5 以上※2	5 以上		2
	アレルギー	2	1 以上※2	1 以上		1
	膠原病	2	1 以上※2	1 以上		1
	感染症	4	2 以上※2	2 以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70 疾患群	56 疾患群※2 任意選択含む	45 疾患群 任意選択含む	20 疾患群	
症例数※5		200 以上 外来最大 20	160 以上 外来最大 16	120 以上	60 以上	29 症例 外来最大 7※3

※ 1　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて,「消化管」「肝臓」「胆・膵」 が含まれること.

※ 2　修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾 患群以上の経験とする.

※ 3　外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める.（ 全て異なる疾患群での提出が必要）

※ 4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ　1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する.

例)「内分泌」2 例 +「代謝」1 例,「内分泌」1　例 +「代謝」2 例

※ 5　初期臨床研修時の症例は，例外的に当内科専門プログラム委員会が認める内容に限り，その登録が認められる.

別表 2 姫路赤十字病院内科専門研修プログラム

内科研修　週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土・日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="4">午前</td><td colspan="5">内科 朝カンファレンス〈各診療科（Subspecialty）</td><td rowspan="8">担当患者の病態に応じた診療 /オンコール / 日当直 / 講習会・学会参加など</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td colspan="5">内科 各種専門検査〈各診療科（Subspecialty）</td></tr>
<tr><td colspan="5">内科 各種専門検査〈各診療科（Subspecialty）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td colspan="5">内科 各種専門検査〈各診療科（Subspecialty）</td></tr>
<tr><td colspan="5">内科 各種専門検査〈各診療科（Subspecialty）</td></tr>
<tr><td>内科全体カンファレンス</td><td colspan="4">内科 カンファレンス〈各診療科（Subspecialty）</td></tr>
<tr><td colspan="6">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など</td></tr>
</table>

【検査】ルチーンワークとしての検査研修については，専攻医の希望を踏まえて調整します

上部・下部内視鏡検査：毎日午前・午後、　気管支鏡：火・金曜日　午前、肝生検：金曜日　午前

腎生検：月・水曜日　午前、骨髄穿刺・骨髄生検：随時（病棟，外来）

【カンファレンス】

消化管：水曜日 19 時　　，　肝臓：木曜日 16 時　，　呼吸器：随時

血液：火曜日午前（総回診含む），　腎・膠原病・代謝：月曜日 17 時（火曜日午前に総回診）

- 内科〈各診療科（Subspecialty）〉バランスにより，担当する業務の曜日，時間帯は調整されます.
- 日当直やオンコールなどは，内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します.
- 外来（初診外来含む）は，バランスにより，調整します.
- 地域参加型カンファレンス，講習会，CPC，学会などは各々の開催日に参加します.

循環器内科研修
週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土・日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="4">午前</td><td></td><td></td><td></td><td>循内科カンファレンス</td><td></td><td rowspan="8">担当患者の病態に応じた診療 /オンコール / 日当直 / 講習会・学会参加など</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">心臓 カテーテル</td><td rowspan="2">心臓 アブレーション</td><td>負荷心筋 シンチ</td><td rowspan="2">心臓 カテーテル</td><td>負荷心筋 シンチ</td></tr>
<tr><td>心臓 カテーテル</td><td>心臓 アブレーション</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">心臓 カテーテル</td><td rowspan="2">心臓 アブレーション</td><td></td><td rowspan="2">心臓 カテーテル</td><td rowspan="2">心臓 アブレーション</td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td>内科全体カンファレンス</td><td></td><td>循内科カンファレンス</td><td></td><td>循内科カンファレンス</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など</td></tr>
</table>

・ ベッドサイド診療を中心として，診断，治療，Informed Concent などを一症例ごとに追究します.
・ 独力で心電図判読，各種画像診断が出来て，心エコーを独力で実施・結果説明できる能力を修得します.
・ 十分な研修到達度に達した場合には，経食道心エコー検査や心臓カテーテル検査などの Subspecialty 領域の検査を 主担当として実施できる機会を得ることが出来ます.
・ 救急・急性期疾患にファーストタッチから積極的に参加し，的確な診療を修得します.
・ 日当直やオンコールなどは，内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します.
・ 各種カンファレンス・講習会・講演会を通して，循環器診療に関する様々な情報を共有します.
・ 地域参加型カンファレンス，講習会，CPC，学会などは各々の開催日に参加します.
・ 内科一般のルチーンワーク（検査・治療など）については，個別に相談・調整可能です.